



# 環境かわら版

2026 年 2 月号(第 357 号)



あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業  
の実施団体を募集しています(P2)



あいち地球温暖化対策フォーラムを開催しました(P3)



モリゾー キョコロ  
あいち SDGs アンバサダー ©GISPRI

愛知県は「SDGs 未来都市」として、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取組を推進しています。県の環境に対する取組は、環境局 Web ページ「あいちの環境」で紹介しています。



「あいちの環境」(<https://www.pref.aichi.jp/site/kankyo/>)



# あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業の 実施団体を募集しています



愛知県では、「あいち森と緑づくり税」を活用して、NPO やボランティア団体など多様な主体が行う自発的な森と緑の保全活動や環境学習の取組を促進するため、「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金」による支援を行っています。



活動の様子（緑のカーテン事業）

現在、2026 年度に実施する企画提案を募集しますので、是非ご応募ください。

## 1 対象とする団体

NPO、ボランティア団体、農業協同組合、漁業協同組合、森林組合、自治会、私立学校等（県内に活動の拠点を置く、5 名以上の団体）及び市町村

## 2 募集期限 3 月 2 日（月）（必着）

## 3 提出書類及び部数

「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業実施計画書」3 部。様式は、Web ページからダウンロードできます。

## 4 提出先

主な事業実施場所が所在する市町村を所管する東三河総局（新城設楽振興事務所を含む）又は県民事務所の環境保全課

（名古屋市内は県庁の環境活動推進課）

詳細は Web ページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/press-release/2026morizeikikakubosyu.html>)



森と緑 環境活動

検索

環境活動推進課 調整・環境配慮行動グループ  
電話 052-954-6241（ダイヤルイン）

# 「令和 7(2025)年度アスベスト対策に関する講習会」を オンラインで配信しています



アスベスト（石綿）は、人が吸い込むことで中皮腫や肺がんなどを引き起こすおそれがある天然の鉱物です。過去に建築材料として多く使用されており、使用されている建築物等の解体等作業を行うときは、適切な措置をとる必要があります。

そこで、大気汚染防止法等の規制内容や事前調査における注意点などを説明する「アスベスト対策に関する講習会」をオンライン形式で配信していますので、是非ご視聴ください。

## 1 公開期間

3 月 13 日（金）17：00 まで

## 2 開催方法

YouTube によるオンライン形式（録画配信）

## 3 内容

法規制の内容、石綿事前調査について 等

## 4 受講対象者

建設業関係者、建築物所有者、県民等

## 5 参加費

無料（通信費は自己負担）

## 6 申込期間

3 月 13 日（金）12：00 まで

## 7 申込方法

あいち電子申請・届出システムからお申込みください。申込完了時にメールにて視聴方法をご案内します。

(<https://ttzk.graffer.jp/pref-aichi/smart-apply/apply-procedure/2267465596909997130>)



水大気環境課 大気規制グループ  
電話 052-954-6215（ダイヤルイン）

# あいち地球温暖化対策フォーラムを開催しました



愛知県では、2025 年 12 月 23 日に愛知県芸術文化センター（名古屋市東区）で「あいち地球温暖化対策フォーラム」を開催し、会場・オンライン合わせて約 300 名の方にご参加いただきました。

## 1 認定証授与

電気自動車やプラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車の導入など、自動車利用における脱炭素化の取組を積極的に実践する「自動車エコ事業所」の方や、カーボンニュートラルの実現に向け、事業者自らが宣言した自主性や創意工夫を活かした CO<sub>2</sub>削減の取組内容などを県が認定・公表する「あいちカーボンニュートラルチャレンジ」認定事業者の方々に、知事から認定証が授与されました。



認定証授与式の様子

## 2 基調講演

芝浦工業大学建築学部長・教授の秋元 孝之<sup>あきもと たかし</sup>さんから、「持続可能な社会と住宅・建築物の役割」と題して、カーボンニュートラル社会に向けた政策動向での住宅・建築物の位置付けや建築物の脱炭素化のために今後求められることについて、ご講演いただきました。



基調講演の様子（講師：秋元 孝之氏）

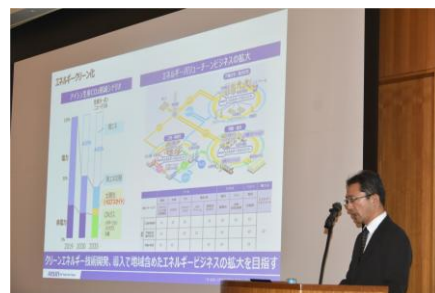
## 3 事例発表

（株）NTT ファシリティーズ取締役・ソリューション本部長の榎木 靖倫<sup>えのき やすのり</sup>さんから、「省エネ建築物の副

次的効果を定量化した総合的な価値評価指標 NEBs（Non-Energy Benefits）の紹介」と題して、建物の省エネ化に伴う光熱費の削減以外の効果を評価する取組について、（株）アイシン先進開発部主査の栗田 信明<sup>くりた のぶあき</sup>さんから、「アイシンにおけるペロブスカイト太陽電池の取り組み」と題して、ペロブスカイト太陽電池開発の取組について、それぞれ発表していただきました。



事例発表の様子（講師：榎木 靖倫氏）



事例発表の様子（講師：栗田 信明氏）

## 4 トークセッション

講演・事例発表の講師 3 名に加え、気象予報士でフリーアナウンサーの早川 敦子<sup>はやかわ あつこ</sup>さんを進行役に、「建築物から取り組むカーボンニュートラル」をテーマにトークセッションを行いました。

カーボンニュートラル社会の実現に向けて、現状や課題、今後の展望などについて意見交換がなされました。

## 5 その他

今後も「カーボンニュートラルあいち」の実現に向けて、県民及び事業者の意識の向上や行動の変革を促していくとともに、あらゆる主体と連携・協力した取組を推進していきます。

地球温暖化対策課 調整・企画グループ  
電話 052-954-6213（ダイヤルイン）



## 「おいしく食べきりレシピコンテスト in あいち」を 開催しました



愛知県では、県民の皆さんに食品ロス問題について関心を持ち、食品ロスの削減に取り組んでいただくため、栄養系・調理系の学生等から「食品ロスの削減につながるレシピ」を募集したところ、73 点の応募がありました。

審査員による審査の結果、最優秀賞 1 点、審査員賞 1 点、優秀賞 3 点、アイデア賞 4 点が選定され、最優秀賞にはチーム「彩芽」が考案した「ブロッコリーの茎ポタージュ パン耳クルトンのせ」が選ばれました。



最優秀賞の作品と考案チーム「彩芽」

これら 9 点の入賞レシピについては、今後、県がレシピカードを作成し、県内で配布するなど、食品ロス削減に向けた普及啓発に活用します。



審査員による審査の様子

コンテスト結果の詳細は、Web ページをご覧ください。

(<https://kankyojoho.pref.aichi.jp/foodloss/2025results.html>)



資源循環推進課 一般廃棄物グループ  
電話 052-954-6234 (ダイヤルイン)

## 「あいちプラごみ無くし隊」の活動を実施しました



愛知県では、プラスチックごみ削減の取組を推進するため、相撲芸人でごみ拾い活動家のあかつさんを隊長、県内在住の学生、社会人等を隊員とする「あいちプラごみ無くし隊」を結成し、計 3 回の活動を通じて、延べ 29 名の方に清掃活動やプラスチックの利用を減らす取組を実体験していただきました。

第 1 回は「清掃活動 [街編]」として、大須商店街等でごみ拾い活動を行い、プラスチックごみの特徴について話し合い、自分たちでこれからできることについて考えました。

第 2 回は「清掃活動 [海編]」として、'25 秋の藤前干潟クリーン大作戦」に参加し、藤前干潟周辺の漂着物に係るごみ拾い活動を行い、プラスチックごみの量の多さを実感しました。

第 3 回は「プラスチック利用削減取組体験」として、春日井市内のスーパーマーケット店舗にてプラスチック容器メーカー担当者からプラスチック製容器の再生

利用に向けた取組に係る説明を受け、近隣店舗ではマイボトルの利用体験も実施しました。

これらの活動の詳細は、以下をご覧ください。

・「海と日本プロジェクト in 愛知県」公式 X  
([https://x.com/uminohi\\_aichi](https://x.com/uminohi_aichi))

・「愛知のニュース」(活動レポート)  
(<https://news.tv-aichi.co.jp/single.php?id=8456>)



隊長・あかつさん



藤前干潟でのごみ拾い活動

資源循環推進課 一般廃棄物グループ  
電話 052-954-6234 (ダイヤルイン)

## 産業廃棄物税制度にご理解・ご協力をお願いします



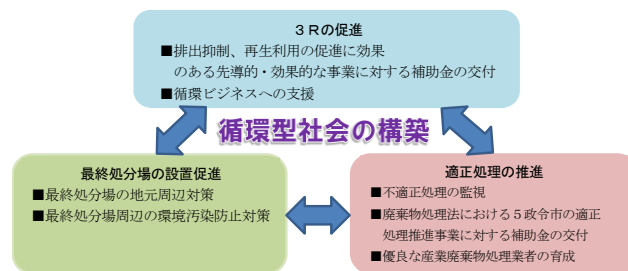
愛知県では、循環型社会の実現に資することを目的として、2006 年 4 月から「愛知県産業廃棄物条例」を施行しています。

産業廃棄物税は、県内の最終処分場に産業廃棄物を搬入する排出事業者等を納税義務者とし、産業廃棄物の重量 1 トン当たり 1,000 円、自社の最終処分場に搬入する場合は 1 トン当たり 500 円を納めることとしています。納められた税は、循環ビジネスの事業化支援や高度なりサイクル施設整備への事業費補助等の「3R の促進」、「最終処分場の設置促進」、不法投棄の監視等の「適正処理の推進」に関する、循環型社会の実現に資する事業に充てています。

この条例は、施行後 5 年ごとに見直しを行っており、2025 年 10 月に愛知県環境審議会から、「現行税制度はその枠組みを変えることなく、引き続き、施行していくことが適当である」とのご意見をいただ

たことから、2026 年度以降も、現行の税制度を 5 年間継続することとしました。

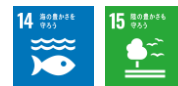
引き続き、産業廃棄物税制度を適切に運用し、循環型社会の実現に向け、各種施策を推進していきますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。



### 産業廃棄物税の使途

資源循環推進課 調整グループ  
電話 052-954-6232 (ダイヤルイン)

## 2025 年度愛知県環境調査センター研究発表会を開催します



愛知県環境調査センターでは、県の環境行政を科学的・技術的に支える機関として調査研究を実施しています。その成果を広く発信するため、研究発表会を開催します。是非ご参加ください。

1 日時 3 月 3 日 (火) 13:30~16:00

2 開催場所

会場：環境調査センター 第 1 会議室  
(名古屋市北区辻町字流 7-6)

オンライン参加も可能です。(Teams 利用予定)



昨年度の研究発表会の様子

3 定員

【会場】60 名【オンライン】100 名

ともに申込先着順

4 参加費

無料 (オンライン参加の通信費は参加者負担)

5 申込方法

Web ページから申込フォームにアクセスしていただき、必要事項をご入力の上お申し込みください。

6 申込期限 2 月 27 日 (金) まで

詳細は Web ページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/press-release/2025happyokai-boshu.html>)



愛知県環境調査センター 研究発表会

検索

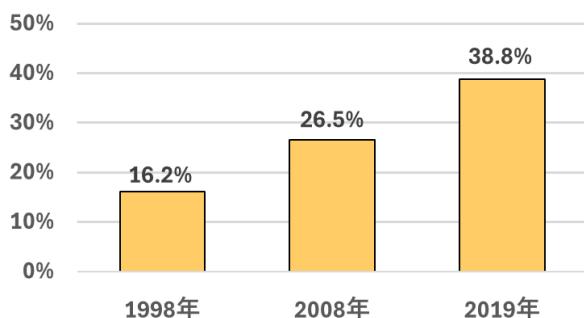
環境調査センター 企画情報部  
電話 052-910-5486 (ダイヤルイン)

## ○ 気候変動と花粉症

愛知県では、毎年2～4月にスギなどの花粉が飛散し、くしゃみ、鼻汁、目のかゆみなどの症状を伴う花粉症に、多くの人が悩まされています。

日本における花粉症の原因として最も多いスギ花粉は、夏の平均気温が高いほど翌年春の飛散量が増加し、冬の平均気温が高いほど飛散開始日が早まる傾向があります。したがって、地球温暖化に伴う気候変動は、花粉の飛散開始の早まりによる飛散期間の長期化や、飛散量の増加を引き起こす可能性があります。

実際に、環境省の花粉症環境保健マニュアル2022によると、日本におけるスギ花粉症の有病率は、1998年調査の16.2%から、2008年には26.5%、2019年には38.8%と、年々増加傾向にあります。



日本におけるスギ花粉症の有病率の推移  
 (「花粉症環境保健マニュアル2022\*」(環境省)  
 を基に愛知県が作成)

\*<https://www.env.go.jp/content/900406385.pdf>

## ○ 春のスギ花粉飛散予測と花粉症対策

スギ花粉症は適切な対策を講じることで症状を軽減することができます。花粉の飛散時期や特徴を

知り、いかに花粉を避けるかが重要となります。

(一財)日本気象協会によると、本年春の愛知県へのスギ花粉飛散開始は例年並みで、2月上旬からと予測されています。また、前年秋のスギ雄花着花量が多くなると、春に飛散するスギ花粉も多くなります。環境省の令和7年度スギ雄花着花量調査によると、11～12月の愛知県のスギ雄花着花量は、過去10年平均値の213%でした。このことから、春のスギ花粉飛散量は、例年より多いことが見込まれます。

個人で取り組める身近な対策をご紹介しますので、是非お試しください。

- ・花粉情報をチェックし、花粉の飛散量が多いと予測される日や飛散量が多い時間帯(昼前後と夕方)の外出を避けましょう。晴れて気温が高い日や空気が乾燥して風が強い日、雨上がりの翌日は注意が必要です。
- ・外出する場合は、花粉から目や鼻を守るために花粉対策用のメガネやマスクなどを着用するとともに、花粉が付きにくい服装を心がけましょう。
- ・帰宅後は、手洗いやうがいを行いましょう。洗顔、洗髪を行うのもおすすめです。
- ・洗濯物や布団の外干しを控えましょう。

スギ花粉は、飛散開始と認められる前からわずかな量が飛び始めますので、対策は早めに始めるとよいでしょう。



愛知県気候変動適応センター  
 (環境調査センター 企画情報部)  
 電話 052-910-5489 (ダイヤルイン)

※掲載のイベントや講習会等は、天候の影響等により、内容を変更又は中止する場合があります。

## 愛知県環境情報紙「環境かわら版」(第357号)

発行日 2026年2月2日

編集・発行 愛知県環境調査センター 企画情報部

所在地 〒462-0032 名古屋市北区辻町字流7-6

電話 052-910-5486(ダイヤルイン)

URL <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyo-c/0000007029.html>  
 (今月号とバックナンバーを掲載しています。)



掲載記事は広報紙等へ再掲していただきますようお願いいたします。